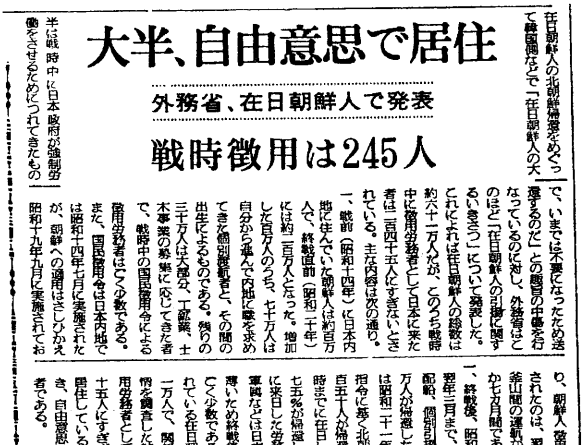
大半、自由意思で居住

外務省、在日朝鮮人で発表

戦時徴用は245人



在日朝鮮人の北朝鮮帰還をめぐって韓国側などで「在日朝鮮人の大半は戦時中に日本政府が強制労働をさせるためにつれてきたもので、いまでは不要になったため送還するのだ」との趣旨の中傷を行なっているのに対し、外務省はこのほど「在日朝鮮人の引揚に関するいきさつ」について発表した。これによれば在日朝鮮人の総数は約六十一万人だが、このうち戦時中に徴用労務者として日本に来た者は二百四十五人にすぎないとされている。主な内容は次の通り。

一、戦前（昭和十四年）に日本内地に住んでいた朝鮮人は約百万人で、終戦直前（昭和二十年）には約二百万人となった。増加した百万人のうち、七十万人は自分から進んで内地に職を求めてきた個別渡航者と、その間の出生によるものである。残りの三十万人は大部分、工廠業、土木事業の募集に応じてきた者で、戦時中の国民徴用令による徴用労務者はごく少数である。また、国民徴用令は日本内地では昭和十四年七月に実施されたが、朝鮮への適用はさしひかえ昭和十九年九月に実施されており、朝鮮人徴用労務者が導入されたのは、翌年三月の下関―釜山間の運航が止るまでのわずか七カ月間であった。

一、終戦後、昭和二十年八月から翌年三月まで、希望者が政府の配船、個別引揚げで合計百四十万人が帰還したほか、北朝鮮へは昭和二十一年三月、連合国の指令に基く北朝鮮引揚計画で三百五十人が帰還するなど、終戦時までに在日していた者のうち七五%が帰還している。戦時中に来日した労務者、復員軍人、軍属などは日本内地にはじめが薄いため終戦後、残留した者はごく少数である。現在、登録されている在日朝鮮人は総計六十一万人で、関係各省で来日の事情を調査した結果、戦時中に徴用労務者としてきた者は二百四十五人にすぎず、現在、日本に居住している者は犯罪者を除き、自由意思によって在留した者である。

写真①　在日朝鮮人のうち徴用されてきた者が245人しかいないと報じる記事（『朝日新聞』1959年7月13日付

写真②　密航を報じる記事は多数見られる（『大阪朝日・南鮮版』1938年11月3日付

密航青年ご難

釜山でまんまとしてやらる

内地へ渡航せんとする家出青年を誘惑し密航手數料を詐取した上他人の發動機船の船艙に押し込めて逃走した大膽な密航詐欺犯人が二日釜山水上署に檢擧された

犯人は釜山府本町五荷物運搬業趙斗煥（六十）で、母の金七十圓を無斷持出し大阪へ赴くため家出した慶尙北道青松郡縣西面趙鏞伊（二十）が釜山まで來て渡航が出來ずうろ〳〵してゐるのをみつけ言葉巧みに同人に近づき、內地へ密航させてやるとて密航手數料として二十圓を詐取した上一日釜山大橋附近に碇泊中の他人所有の發動機船神保丸に押し込み船艙內に閉ぢ込め

そのまゝ逃走して行方を晦してゐたが、二日釜山水上署に逮捕された